

妖精のおじさんが教えてくれた。仕事の本音と時々、悪口。

WATAOJI



はじめまして、
僕、妖精の
おじさんです。

会社で我慢
やめました。

金曜ナイトドラマ

私のおじさん

1月11日スタート 毎週金曜 11時15分

岡田結実 城田優 小手伸也 戸塚純貴 中川知香 玉田志織・田辺誠一・青木さやか 遠藤憲一
脚本：岸本結佳 モラル 音楽：木村秀彬 主題歌：aiko(ココロキキョウ) 演出：竹園元 Yuki Saito 小松隆志 制作：テレビ朝日 MMJ / tv asahi

©テレビ朝日

成田出身 Yuki Saito 監督ドラマ「私のおじさん~WATAOJI~」絶賛放送中！
撮影現場での個性豊かな俳優陣と監督の関係に迫る！

今、日本は空前の「おっさんブーム」！昨年の超話題作「おっさんずラブ」での活躍も記憶に新しいYuki Saito監督。只今放送中のドラマ「私のおじさん~WATAOJI~」でも、2話・5話・7話の演出を手がけた監督へ突撃インタビューしてきました！

監督として現場で心がけていることは何ですか？

まずは俳優陣の考えを聞くことですね。その為には、自らコレをやってみようという気持ちにさせる環境づくりが大事だと思っています。

カットごとに分けて基本的には通して撮影するようにしています。そうすると、イキイキとした芝居でアドリブも生まれます。自分は目の前の舞台を見て、そくするならこう撮る、みたいな感覚です。これは「おっさんずラブ」の撮影現場でも身につけました。俳優陣には私の考え全てを伝えていません。現場で起きたことを大事にしながら、自分の想像をこえてくる面白いものを撮りたいんです。



俳優陣と監督の信頼関係が、面白い作品を作るんですね。連ドラ初主演の岡田結実さんはどうでしたか？

このドラマは岡田結実さん演じる新人AD・一瀬ひかりが仕事を通して成長していく物語です。実際の岡田結実さんも明るく天真爛漫で素直な女性なので、ひかりと重なる所が多いですね。初めての撮影ではすごい緊張して入ってきたんですが、現場に慣れてリラックスしてくると、持ち前のコメディエンヌとしての才能を開花させて、自然な芝居をするようになってきました。回を重ねるごとに、岡田結実さん自身もぐんぐん成長していくので、それを撮っていくのが本当に楽しかったです。これを実現できたのは「一瀬ひかりを支えて、輝かせるんだ」という意識が、俳優陣にもスタッフにも共通意識としてあり、同じ目標のもとに結束できたからです。皆をそういう気持ちにさせたのも、彼女が持っている才能だと思います。

特に遠藤憲一さんは、妖精のおじさん役さながらに、「こうしたらもっと良くなる」と優しくアドバイスをしたり、ずっとひかりに寄り添っていました。クライマックスシーンの撮影でも、撮影前に私のところにきて、



Yuki Saito監督が手がけた第7話
3月1日(金)よる11:15~放送!
※一部地域を除く

「(台本にはなかった)台詞を足したいんだけど、良いかな？」という相談を受けました。とても力強い台詞だったので、即OKしました。実際に撮影が始まると、その台詞がきっかけでひかりの表情が変わり、一気に感情を爆発させる引き金になったと思います。数々の現場を経験してきた遠藤憲一さんの言葉は深く、ものすごい説得力があるのですが、いい意味であり重過ぎず、不思議な安心感を与えてくれます。

城田優さんも、岡田結実さんを支える為に、裏でリーダーとなり、俳優部をよくまとめてくれました。そんな城田優さんの芝居を受ける形で、岡田結実さんにも実に純粋なリアクションで演じています。城田優さん演じる千葉ディレクターが感情を表に出すシーンの撮影では、感情を途切れさせたくなかったので、2台のカメラを使って約5分間1カットで長回しをしました。普段はあまり感情を表に出さないクールな役柄だったので、熱い気持ちを出すまでの助走が必要でした。特にこちらから何も言わなくても、このシーンの重要性を感じとって、僕の想像をはるかに超える形で応えてくれました。



第5話は「TV業界で働く父と娘の話」でしたが、監督自身も重なる部分があったのでは？

そうですね。戸塚純貴さんが演じた3人子持ちのAD・九条の仕事よりも家族との時間を大切にするという考え方、新しい価値観に考えさせられましたね。そもそも仕事と家族は比べるものではないと思うのですが、時間という観点から見ると、どちらかを取らなくては行けない。その時に、自分は仕事を取ってしまうなあ~と思います。九条と同じで、私も共働きなのですが、妻の方が仕事をセーブしながら家族を第一に考えてくれるからこそ、自分の仕事に集中できるんだと再確認しました。現場にいる子を持つスタッフもみな「心に響くなあ」と言っていたのが印象的でした。

お子さんのいる青木さやかさんとの会話をきっかけに、先日、私の子ども(8歳の息子と6歳の娘)と妻が撮影現場に見学に来ました。連休も全て撮影が入っていたので、せめて父が何をやっているのか見せたかったということもあり、今回は甘えさせて頂きました。俳優もスタッフも温かく迎えてくれて嬉しかったですね。子どもたちも「わたおじ」を毎週楽しみに見ているので、普段テレビの中で見ている登場人物たちに遊んでもらって嬉しそうでした。

アメリカにいた頃は、スタッフが現場に子どもを連れてくるのは当たり前で、現場で働く父や母の姿を見せて社会科見学をさせていました。正直、日本では、子どもを仕事場に連れてくることを良しとしない人もたくさんいらっしゃると思います。ですが、今回の現場なら大丈夫だと思えたとし、監督として積極的にその姿勢を見せたいとも思いました。今後、Yuki組では子どもの社会科見学はOKにしていきたいです。



Yuki Saito プロフィール

1979年生まれ、千葉県成田市出身。成田国際高校卒業後に渡米し、本場ハリウッドで8年間映画を学ぶ。2015年、短編映画「ゴッサム ジャンブル パフェ」でショートショートフィルムフェスティバル & アジア史上初となる4度目の「観客賞」を受賞後、世界各国20以上の映画祭で上映。2012年には、被災地のペット達の救援活動をドキュメントした『インスタントペットハウス』がカンヌ国際広告祭「Direct部門」でシルバーとブロンズ、「Design部門」でもブロンズを受賞し、2013年、サンシャイン水族館「ペンギンナビ」がカンヌ国際広告祭「Mobile部門」でシルバーとブロンズを受賞。翌2014年にも同作が「Design部門」でゴールドを受賞し、3年連続のカンヌ受賞を達成するなど、CM監督としても国内外で高い評価を受ける。ドラマでは「ロボサン」(TX)ではVFXアニメーションと実写をコラボさせた新しい試みで話題を集め、第68回日本映画テレビ技術協会VFX部門映像技術賞を受賞。2016年4月クールに放送された「屋のセント酒」(TX)が話題を呼ぶ。2016年秋には商業長編デビュー作として川端康成原作「古都」を現代版にアレンジし、松雪泰子(一人二役)を主演に迎え、橋本愛、成海璃子、伊原剛志、奥田瑛二など実力派俳優が出演し、原作の未来を描く映画「古都」で商業長編デビューを果たし、文部科学省特別選定映画に選出される。2018年「おっさんずラブ」(テレビ朝日)第6話放送後、Twitterの世界トレンド1位となり大反響を呼んだ。